

TED 導入前、セルフチェック用資料

1 出荷納期管理編

- イ 顧客への納期進捗が一目でわかる仕組みになっているか？
- 4 一目瞭然 3 10秒以内に取り出せる 2 調べるとわかる 1 あるはず？
- ロ その情報は毎日管理職間で共有しているか？
- 4 している 3 毎日ではないがしている 2 していることもある 1 していない
- ハ 管理職はその情報を現場へ毎日伝達しているか？
- 4 している 3 毎日ではないがしている 2 していることもある 1 していない
- ニ 現場はその指示を守っているか？
- 4 守っており、異常の場合は上司へ報告している 3 優先順位通り努力している
2 まずは最善をつくしている 1 異常管理が多く 麻痺している
- ホ 納期達成率を期間別に比較検討しているか？
- 4 実行している 3 たまに実行する 2 実行したい 1 意識していない

2 工程納期管理編

- イ 製品は工程毎に納期設定をしているか？
- 4 している 3 重要工程をしている 2 することもある 1 していない
- ロ 工程納期の進捗が一目瞭然となっているか？
- 4 全ての工程で完璧 3 重要工程は判別できる
2 個別部品の帳票をみればわかる 1 努力中
- ハ 職場長は工程別に納期指示を出していますか？
- 4 全ての工程に毎朝指示している 3 重要工程に毎朝指示している 2 把握して
いるところだけ指示している 1 担当者の判断に任せている
- ニ 工程納期は現場で守られていますか？
- 4 守っており、異常発生の場合は上司へ報告が上がる 3 優先順位を把握して動い
ている 2 手元にある製品を見て対応している 1 最善を尽くしていると信じている
- ホ 工程納期の設定変更は柔軟に対応できる仕組みになっておりますか？
- 4 全工程対応できる 3 重要工程のみ対応できる 2 対応できる工程がある
1 対応できないのが実状である

3 目標管理

イ 工程毎に標準時間を設定していますか？

- 4 設定している 3 設定する工程もある 2 設定できていない
1 意識していない

ロ 設定した標準時間は担当者が加工前に確認できますか？

- 4 確認できる 3 確認できることもある 2 後から確認できる 1 できない

ハ 標準時間と加工実績の差を比較できますか？

- 4 リアルタイムに対比できる 3 後から対比できる
2 対比しようと思えば可能である 1 対応できていない

ニ 加工実績時間を集計できますか？

- 4 全てに対応できる 3 できるが重要部品のみ集計している
2 仕組みはあるが集計する工数が足りない 1 大まかになら申告させている

ホ 工数山積み・崩しはできますか？

- 4 できる 3 できるがリアルタイムには対応していない
2 仕組みはあるがやっていない 1 仕組みがない、必要性を感じない

ヘ 計画と実績の比較を定期的におこなっていますか？

- 4 やっている 3 やっているものもある 2 仕組みはあるが実施していない
1 仕組みがない

4 在庫管理編

イ 在庫数を差し引いて生産しているか？

- 4 実施している 3 実施しているが在庫数に不安がある。
2 仕組みがあるが不安があるため実施していない 1 実施していない

ロ 在庫生産、ロット生産を実施していますか？（している場合のみ回答）

- 4 顧客情報・社内事情を分析して定期的見直しをしながら実施している
3 顧客情報・社内事情を分析して実施しているが見直しは行っていない
2 根拠は不明確だが生産指示を出している。 1 現場に任せている

ハ 在庫金額は把握していますか？

- 4 リアルタイムで把握できる 3 月に一回把握している
2 年度末に把握している 1 税務署に指摘されるまで把握しない

ニ 在庫は先だしの仕組みがありますか？

- 4 ある 3 ある程度ある 2 担当者に任せている 1 わからない

ホ 図面変更・不良発生の際に在庫も調査する仕組みになっていますか？

- 4 仕組みがあるし チェックも行っている
3 仕組みがあるが担当者に任せている 2 担当者がしっかりやっているはず
1 どうなっているか楽しみ

5 履歴管理編

イ 生産した製品（部品）の製造ID（ロットNO等）を把握できておりますか？

（部番が同じでも、ロット別に把握することを意味しております。）

- 4 すぐに判明する 3 10分以内で判明する
- 2 資料を探せば重要部品に限り判明する 1 難しいのが実状

ロ 生産した製品（部品）の製造工程を把握できておりますか？

- 4 ロット別に判明する 3 ロット別ではないが部品別に判明する
- 2 重要工程では調査すれば判明する資料がある 1 資料はないが記憶がある

ハ 生産した製品（部品）の担当者は工程別に把握できておりますか？

- 4 ロット別に判明する 3 時間はかかるが資料は残っている
- 2 仕組みはあるが、データがない 1 記憶が頼り

二 不良履歴は把握できますか？

- 4 瞬時に把握でき、対策が工程に反映されているか確認できる
- 3 時間がかかるが上記内容が確認できる
- 2 把握できるが工程に反映しているか確認することが難しい
- 1 同一箇所の再発に気づかない仕組みである

6 金額集計編

イ 受注金額集計は一目瞭然ですか？

- 4 リアルタイムに受注した際に自動集計されております
- 3 期間を区切って集計して把握しております
- 2 月を締めて判明しております
- 1 経理以外に利用しません

ロ 売上金額は一目瞭然ですか？

- 4 リアルタイムで把握できる
- 3 締め後1週間後以内で把握できます。
- 2 締め後2ヶ月以内で把握できます
- 1 決算書が出来上がって把握できます。

ハ 売上集計できる単位はどうなっていますか？

- 4 個人別に細分化できる仕組みがある
- 3 部署別に細分化できる仕組みがある
- 2 事業部別に細分化できる仕組みがある
- 1 全社でなければ把握できない

集計

① 出荷納期管理編	合計	<input type="text"/>	② 工程納期管理編	合計	<input type="text"/>
③ 目標管理編	合計	<input type="text"/>	④ 在庫管理編	合計	<input type="text"/>
⑤ 履歴管理編	合計	<input type="text"/>	⑥ 金額集計	合計	<input type="text"/>

上記の結果からいろいろな社内体質が見えてきます。簡単な例を下記に示しますので参考にしてもらえれば幸いです。

A ①が7点以下の場合

管理体制がありません。従業員数人規模でなければ、納期を守ることができないと判断します。

B ①が13点以下の場合

管理体制がもう一歩です。お客様からの電話で納期遅延が判明する事がある会社だと想像します。

C ①が15点以上 ②が13点以下の場合

納期を守るために、社内で緊急製作部品が飛び回る体質であります。異常管理がどうしても多い現場となっているようです。現場での生産以外の打合せが頻発していると想像します。

D ①、②ともに15点以上で ③が13点以下

納期達成率が高い優秀な会社であります。社内生産高が伸びない欠点がありそうです。納期を守るが原価が守れないという難しい局面が頻発すると想像します。

E ①、②、③が15点以上 ④が13点以下

優秀な会社ですが、量産品が多い場合には死蔵在庫が多い事が想像できます。旧品不良等の管理ミスが現場へ迷惑が及ぶ可能性が大です。是非もう一歩です。

F ①、②、③、④が15点以上 ⑤が9点以下

申し分のない会社ではありますが、大きな量産には対応しない方が良く判断します。不良対策におけるリスク管理がなされていないため、不良発生が会社存続に係る一大事に発展する可能性があります。

G ①から⑥の合計が66点以上

社内の生産管理体制が整っております。ものづくりにおける Q、C、D に関しては PDCA サイクルが回る環境下であります。それを利用して N 倍の事業展開にも耐える管理体制が整っております。

プロジェクト株式会社

生産管理システム導入プロセス

会社状況

とるべき手段

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 ほぼ存在していない | イ 幹部の意識改革 |
| 2 認識しているが場当たりの | ロ 業務プロセスの文章化 |
| 3 文書化しているが認知度が低い | ハ 業務プロセスの標準化、データ化 |
| 4 計測と評価ができ、継続的改善が
できている | ニ 情報共有の仕組みづくり
業界ベストとの比較 |
| 5 最適化経営の実現 | |

ITを含めた生産管理システム購入の目安

3の領域以上と判断できる会社は、市販のソフトから自社に合致した性能を確認できる体制が整っている。実際に運用されている会社を見学できれば更に安心して購入できると思います。

2の領域までの会社は、自社の体制作りが急務。自社の体制作りを手伝う能力があるソフト会社を選択できるのあれば、導入可能。しかし、必ず実際に運用されている現場を見学し、自社の業務と比較が必要です。

業務フローを作成し、おおまかな仕様書を作らなければ、購入しても高価な伝票発行以上の働きはしません。

通訳に現地会社の経営を任せますか？

ソフトに詳しい事だけで、現場の素人に任せるミスマッチを警戒しましょう。

一番注意しなければならない点

データベースですので、少ない土台には大きな家は建てられません。少ない土台でスタートする時は作業性を我慢するか、収集データを限定しましょう。

プロフェクト株式会社